

令和5年度SSH研究機関研修を実施しました

8月1日(火)、2日(水)の両日にわたり、最先端の科学技術や研究の現場に触れ、科学的知識や科学研究に対する理解・興味関心の向上を図るため、希望した生徒30名が関西地方でのSSH研究機関研修に参加しました。

1日目の最初の訪問先である「理化学研究所 計算科学研究センター」では、世界最高水準のスーパーコンピュータ『富岳』を見学しました。滞在時間のぎりぎりまで、生徒から研究者への質問が途切れることなく、意欲的に先端研究への理解を深めました。



富岳見学の様子



富岳での集合写真

次に訪れた「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」では、甚大な被害をもたらした阪神・淡路大震災の教訓の継承と発信の拠点となる本施設の見学研修を行いました。震災を経験されたスタッフから当時の様子を聞くとともに、地震や津波などの自然現象について、そのメカニズムや自然災害との結びつきや科学技術活用等の理解を深め、防災・減災への意識を高めました。



スタッフから体験談を聞く様子



台風の進路と気圧配置の関係を学ぶ様子

ホテルでは夕食後に、グループごとに1日目の事後研修、2日目の事前研修を行い、レポートにまとめたことを報告し合いました。作成した研修報告書は、学校祭2日目の文化祭で展示します。



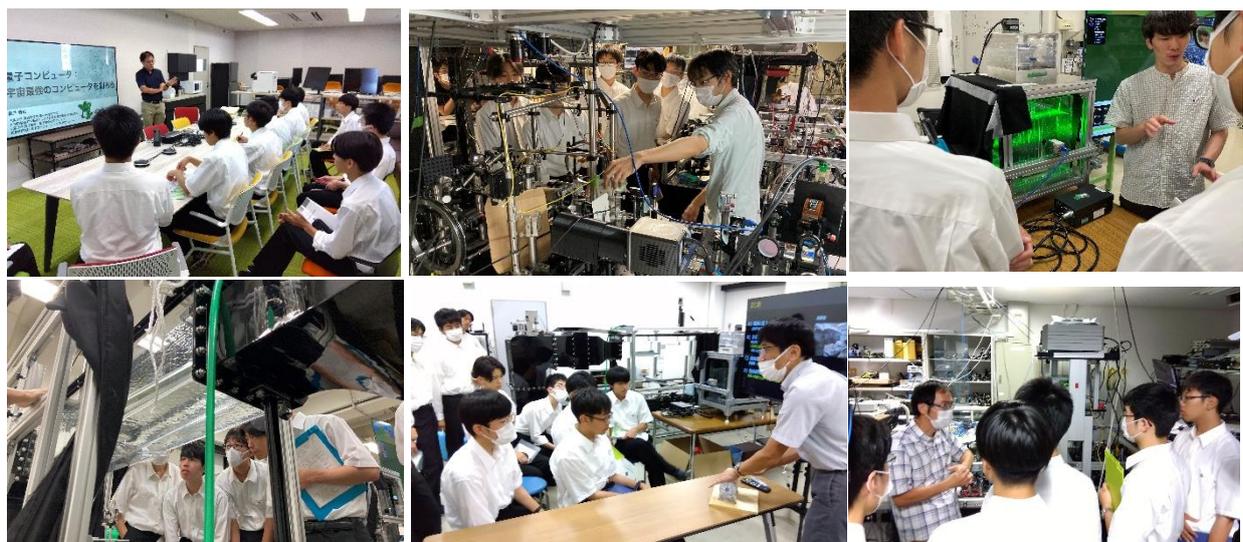
ホテルでの研修の様子

2日目の午前は「大阪科学技術館」を訪問し、『株式会社 大林組』による実習講座を実施しました。橋の模型作りに取り組み、トラス構造やラーメン構造について理解を深めることにより、物理や数学と実際のものづくりとの関係を体感しました。また、館内の見学研修では、日本を代表する約30の先端企業・団体の最新の科学技術にふれ、科学的知識や科学研究に対する理解を深めました。



「株式会社 大林組」による実習講座の様子など

午後からは、「大阪大学基礎工学部/基礎工学研究科」にて3つの研究室を訪問しました。全体説明を受けた後、電子物理科学科 エレクトロニクスコースの藤井啓祐 教授、電子物理科学科 物性物理科学コースの山本俊 教授、システム科学科 機械科学コースの後藤 晋 教授の研究室にて、量子コンピュータや流体力学等に関する研究について、大学教員や大学院生から説明を聞いたり、実験設備の見学を行ったりしました。どの研究室でも、生徒たちは活発に質問し、研究内容についての理解を深めました。



大阪大学 基礎工学部/基礎工学研究科 研究室訪問研修の様子

2日間を通して、大変密度の濃い研修となりました。これからの課題研究活動などに活かすとともに、将来的に大学院への進学や研究者・技術者を目指すきっかけとなることを期待しています。